

# 市川市立福栄中学校 令和7年度 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科
----	-----

学年	1年
----	----

## 1. 学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、食生活に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する力を身に付ける。

## 2. 学習計画

	学習内容	学習のねらい
後期	・家族・家庭生活	・自分の成長と家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基礎的な機能について理解すること。 ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。
	・食事の役割と中学生の栄養の特徴 ・中学生に必要な栄養を満たす食事 ・日常食の調理と地域の食文化	・生活の中で食事が果たす役割について理解すること。 ・中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解し、工夫すること。 ・栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解し、考え、工夫すること。 ・日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。 ・食品や調理用具等の安全と衛生について理解し、適切にできること。 ・材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理ができること。 ・地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。

## 3. 評価

### (1) 内容および方法

	評価の内容	評価の方法
①知識・技能	・学習内容について理解している。 ・食品、用具を安全、衛生的に取り扱うことができ、食材に適した基礎的な調理技能が身に付いている。	・定期試験 ・技能試験、小テスト ・調理実習、作品

②思考・判断・表現	・日常生活と関連付け、課題とその解決方法について考え、工夫している。	・提出物の記述内容 ・発問に対する発言、表現内容
③主体的に学習に取り組む態度	・課題の解決に取り組もうとしている。 ・生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。	・提出物の記述内容 ・授業内の学習活動全般

## (2) 観点と評価の関係

			評定
A	A	A	5
A	A	B	4
A	B	B	3
A	A	C	
A	B	C	
B	B	B	
B	B	C	
A	C	C	2
B	C	C	
C	C	C	1

### <評価の注意事項>

家庭科の授業では、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度を総合的に評価します。各観点において、とても満足できる場合をA、満足できる場合をB、努力を要する場合をCとし、各観点の評価をもとに評定を決定します。授業への積極的な取り組みと課題の内容、授業内の技能テスト、小テストなどに全力で取り組んだ結果が最終的な評価となります。基本的に授業で取り扱うもの全てが評価の参考資料となることを念頭に置き、普段の授業を大切にしましょう。

## 4. 教科に関するアドバイス

学習活動を通して、食生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を目指しましょう。  
また、日常生活と関連付けながら学習し、これからの生活に課題をもって、よりよく生活するにはどうしたらよいか考え、工夫しましょう。